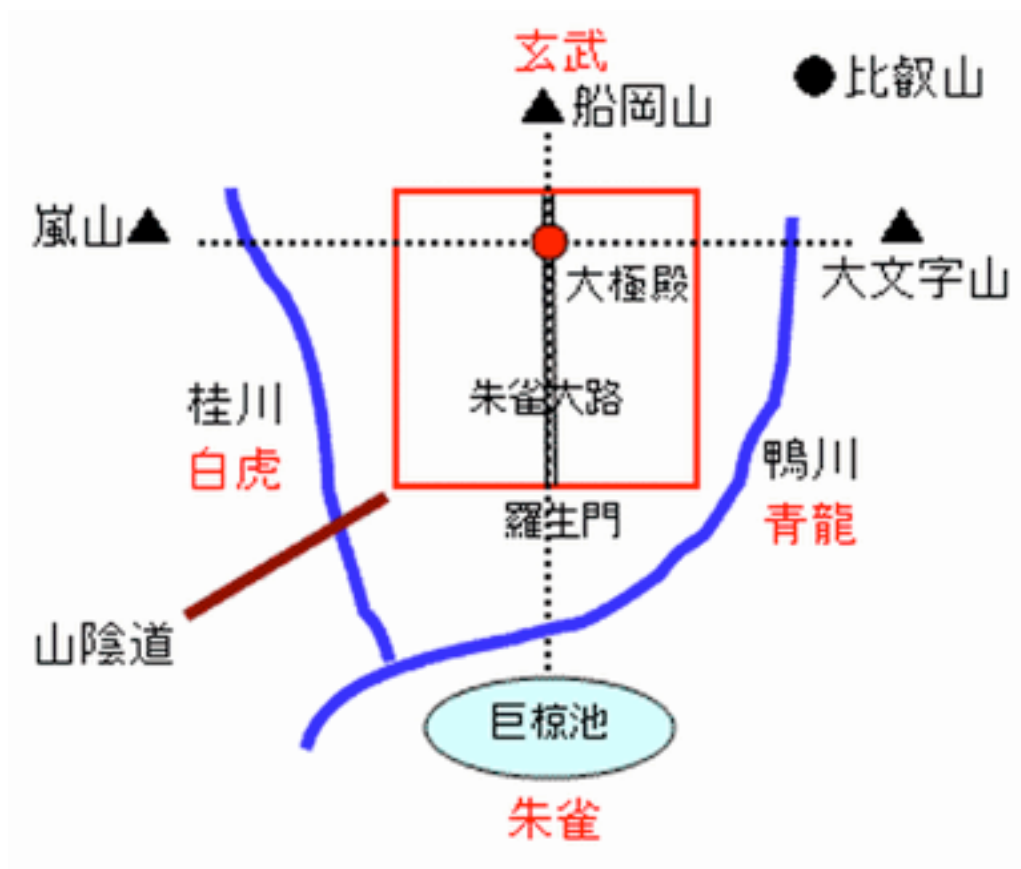


## 朱雀大路

平安京は「四神相応の地」山城に作られた。

『 四神相応の地とは、平安時代の陰陽家・安倍晴明撰の「籠篋内伝（ほきないでん）」巻四に「東に流水あるを青龍といひ、南に沢畔あるを朱雀といひ、西に大道あるを白虎といひ、北に高山あるを玄武といふ。」がそろふ地とある。（註：平安京はまさに理想的な四神相応の地である。）』・・・と。



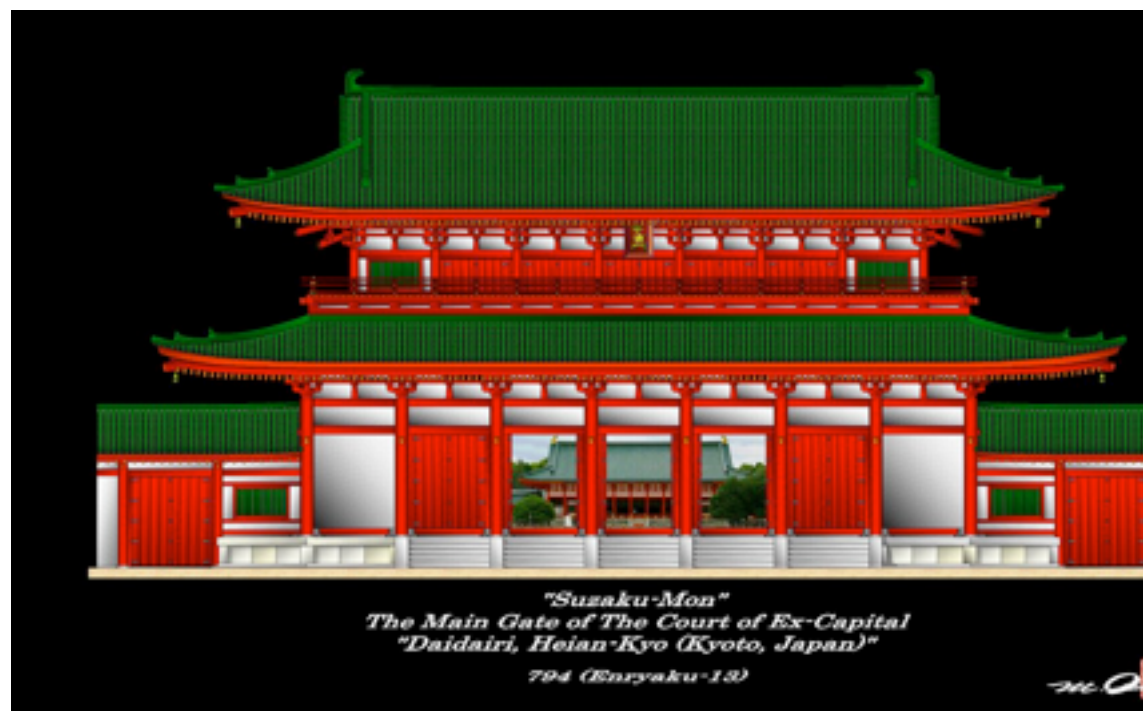
( <http://blog.goo.ne.jp/taitouku19/e/e8084f9d6386097d26dd66b7c2fc933d> より)



船岡山から平安京を見る

( <https://ameblo.jp/aqua-2nd/entry-11834572874.html> より)

神泉苑を西に行けば、千本通りでJR山陰本線二条駅に突き当たる。千本通りは、言わずと知れた朱雀大路（すぎくおうじ）である。少し上がったところが朱雀門である。私の母校・朱雀高校の少し西側である。



朱雀門（コンピュータグラフィックで再現した画像）

( <http://kytfushimi.exblog.jp/11029344> より)

宇治の平等院に「葉二（はふたつ）」という名笛が残っている。元は朱雀門の鬼の笛であったところから、別名「朱雀門の鬼の笛」という。その笛を吹ける者がいなかったのに、天皇の命により、浄蔵という笛の名手が、月のあかるい夜、朱雀門にきてその「葉二」を吹いた。そうすると、朱雀門の上から、鬼が大きな声、でそれを褒め称えたという。笛には摩訶不思議な力があるようだ。

皇居・大極殿は、「千本丸太町上がる西入る」の場所に造られた。この付近が「龍穴」の位置だったからである。今は遺跡があるだけで何の面影も残っていない。

ここで「京都の通り」の話をしておこう。古来、東西の幹線道路は、丸太町通から始まると考えて欲しい。南に向かって、丸太町通り、竹屋町通り、夷通り、二条通り、押小路通り、御池通り、姉小路通り、三条通り、六角通り、凧薬師通り、錦小路通り、四条通り、綾小路通り、仏光寺通り、高辻通り、松原通り、万寿寺通り、五条通り、雪駄屋町通り、鍵屋町通り、魚の棚通り、六条通り、七条通り、八条通り、九条通りと続く訳だ。京都人でもこれらを覚えるのは大変なので、これらを覚える「歌」がある。丸太町通りがそういう東西幹線道路の起点になっているのは、平安京の時代に大極殿の南に面していたからである。現在も、丸太町通りは明治までの皇居・京都御所の南側に面している。昔は、大極殿の南に多くの人々が住んでいたのに、そういう人たちから見て、北は大極殿や京都御所に向かうのを「上がる」と言う。南に行くことを「下がる」という。これは京都独特の言い方である。私が大学を卒業するまで育った家は、「東堀川丸太町下がる」である。こういう言い方をする。大極殿址の石碑の立っている所は、千本丸太町にあるが、丸太町通りに面している訳でもなく、少し路地を入った所であるので、場所の説明としては、千本丸太町としか言いようがない。小さな家の密集地帯なのである。したがって、当時の面影はまったくないという訳だ。再開発をして、それなりの環境整備をすれば良いと思うが、地域住民にそんな気はないらしい。

1895年（明治28年）4月1日に平安遷都1100年を記念して京都で開催された内国勸業博覧会の目玉として平安京遷都当時の大内裏の一部復元が計画された。当初は実際に大内裏があった千本丸太町に計画されたが、用地買収に失敗し、当時は郊外であった岡崎に実物の8分の5の規模で復元された。博覧会に先立つ3月15日には、平安遷都を行った天皇であった第50代桓武天皇を祀る神社として創祀された。皇紀2600年にあたる1940年（昭和15年）に、平安京で過ごした最後の天皇である第121代孝明天皇が祭神に加えられた。





## 平安神宮

( <http://www.jinja-kekkon.net/jinjya/kyoto/heian-jingu.html> による)

これは余分なことだが、私の結婚式は平安神宮で挙げた。